

令和6年度 鉄道沿線まちづくり・駅まちづくり シンポジウム

湯浅駅周辺整備について

～駅前複合施設等の整備と旧駅舎の活用～



和歌山県有田郡湯浅町

湯浅町の紹介①

◆湯浅町は紀伊半島の北西部に位置し、約20.80km²のコンパクトなまち

◆関西国際空港から車で約1時間、新大阪から電車で約1時間半とアクセス良好

令和5年3月にオープンした大阪駅(うめきたエリア)へは、湯浅駅から特急くろしおで乗り換え無し

◆かつて熊野参詣の宿場町として栄え、熊野古道が商店街を通る

◆和歌山県内唯一の重要伝統的建造物群保存地区に選定

◆醤油醸造に関するストーリーが「日本遺産」に認定

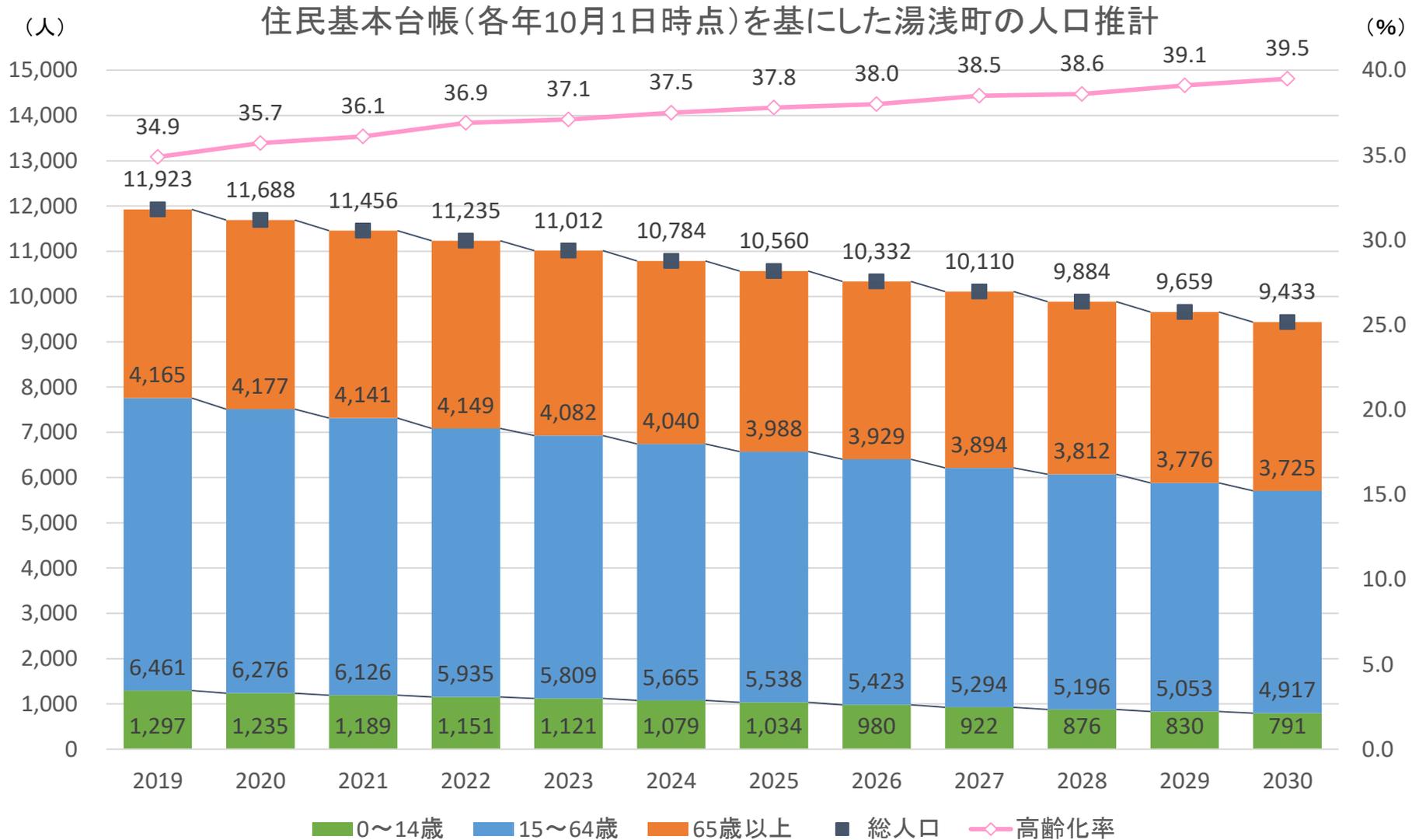
◆湯浅湾で獲れる新鮮な「しらす」は県内で有数の漁獲高を誇る

◆段々畑で育った「田村みかん」はブランド化している

ふるさと納税は、全国から多くの方に応援いただき、みかんが大人気

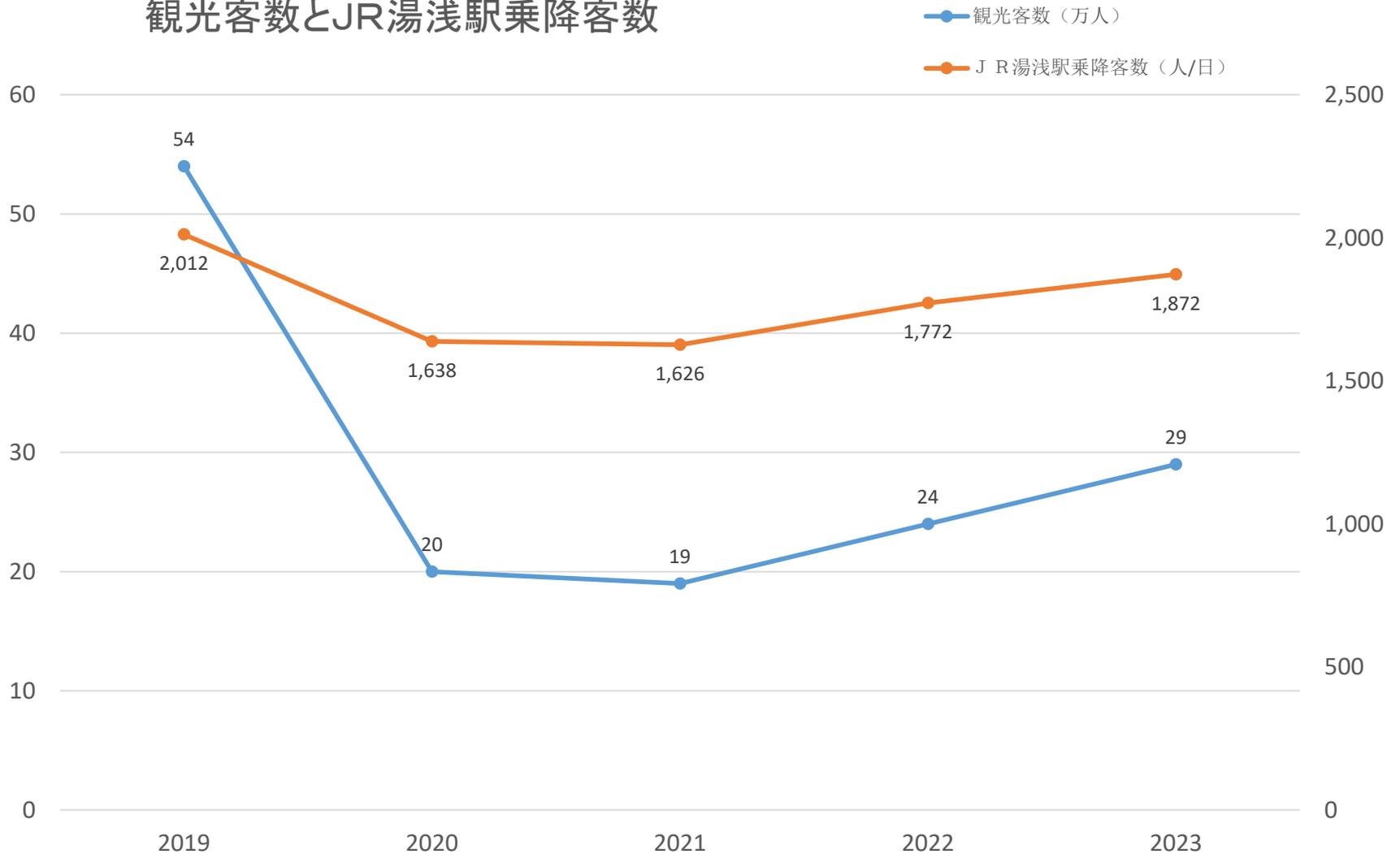


湯浅町の紹介②



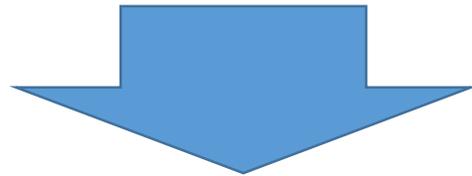
湯浅町の紹介③

観光客数とJR湯浅駅乗降客数



湯浅駅周辺整備の経緯

- ・湯浅駅周辺整備は長年の懸案事項であった
- ・平成27年に、津波浸水区域内に位置していた
役場庁舎を浸水区域外の青木地区へ移転
- ・まちなかの住民の方々が避難できる場所が無い
- ・バリアフリー未対応の駅舎への対策



駅前の利便性・安全性の向上により、
かつての賑わいを取り戻すため、
湯浅駅周辺整備事業に着手



歩車分離となっていない駅前



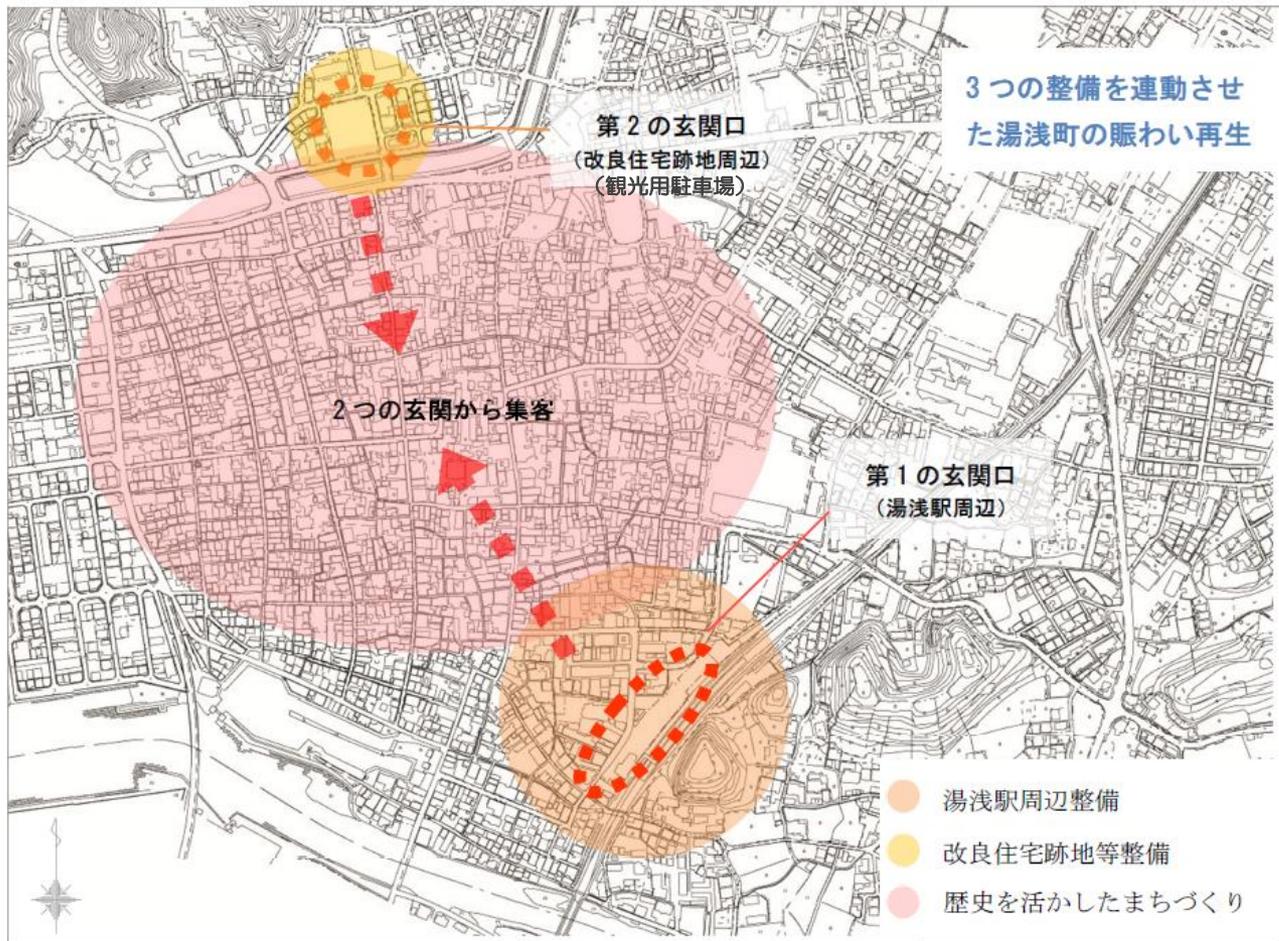
段差が多い駅ホーム



空きスペースが目立つ駅前駐車場

基本方針(概要)

■まちなかへ集客・回遊性を高めるまちづくり



老朽化した役場庁舎



閑散とした湯浅駅前



舗装されていない改良住宅跡地

- ①湯浅駅を中心とした賑わい創出や湯浅駅のバリアフリー化等整備方針
- ②改良住宅跡地等整備方針
- ③歴史を活かしたまちづくりにかかる整備方針

湯浅駅周辺整備の経過

年度	内容
平成27年	基本方針策定 (湯浅駅、改良住宅跡地(観光用駐車場)、旧庁舎跡地(駅前なぎ広場)の活用を含め検討)
平成28年 平成29年	基本設計、住民説明会、実施設計
令和2年	①駅前複合施設「湯浅えき蔵」オープン ②駅ホームのバリアフリー化完了(JR西日本実施) ・広川町、JR西日本和歌山支社との連携協定を締結 ・古民家活用実施方針案を策定
令和3年	③駅前駐車場オープン ④駅前駐輪場オープン ⑤駅前公園オープン ・「株式会社紀陽銀行」、「株式会社つぎと」との古民家活用に関する協定を締結
令和5年	⑥湯浅駅旧駅舎「湯浅米醬」オープン



①湯浅えき蔵



②駅のバリアフリー化



③駅前駐車場(一般・月極)



④駅前駐輪場



⑤駅前公園



⑥湯浅駅旧駅舎「湯浅米醬」

駅前周辺整備について

湯浅えき蔵 (〒643-0004 和歌山県有田郡湯浅町湯浅1075-9)

駅前の利便性の向上と災害時の避難場所を兼ねた複合施設



大規模な地震が発生した場合、屋上階へつながる全ての出入口の鍵が自動的に開錠され、避難することができます。

3F

地域交流センター
会議室1・2・3



誰もが集い憩える場として、地域活動や世代間交流、親睦を促進するための地域交流センターや会議室を設置（災害時には避難所として活用）

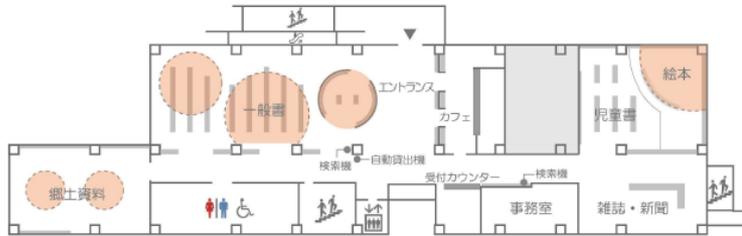
2F 開館時間: 9:00~21:00
休館日: 毎月最終金曜日、年末年始、
蔵書点検期間

3F 開館時間: 9:00~21:00【要予約】
休館日: 年末年始



2F

湯浅町立図書館

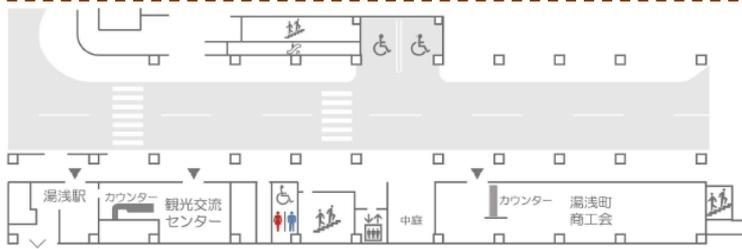


様々な目的を持った幅広い年代の利用者が、落ち着いてゆっくりと過ごせる図書館を設置



1F

観光交流センター
湯浅町商工会
JR湯浅駅



住民の利便性の向上を目的とした、住民票等の発行及び観光案内機能を持った観光交流センター、駅改札、湯浅町商工会を設置



駅前周辺整備について

駅ホームのバリアフリー化（JR西日本実施）

エレベーター設置、ホームと電車の段差解消、屋根の設置



湯浅町営駅前駐車場（〒643-0004 和歌山県有田郡湯浅町湯浅1077-5）

一般駐車場 <63台>

- ・入庫から2時間無料
- ・それ以降100円/時間
- ・1日最大500円

月極駐車場 <20台>

5,000円/月



駅前周辺整備について

駅前駐輪場（〒643-0004 和歌山県有田郡湯浅町湯浅1075-9）

第1駐輪場

134台
(自転車119、バイク15)



第2駐輪場

160台
(自転車130、バイク30)



おちゃと

駅前公園「御茶殿公園」（〒643-0004 和歌山県有田郡湯浅町湯浅1077-6）

ふわふわドームや複合遊具、健康器具の設置で老若男女が集う公園

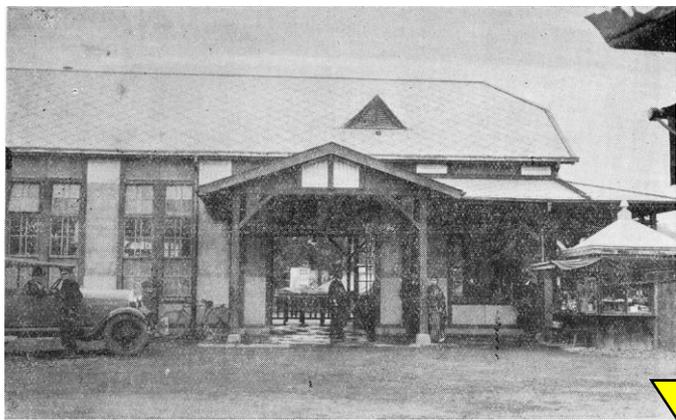


「御茶殿」=この周辺は、かつて熊野詣に訪れた皇族たちの宿所が置かれていた。後鳥羽上皇も御宿泊され、御歌会が催されたとされている。

駅前周辺整備について

湯浅駅旧駅舎「湯浅米醬」 (〒643-0004 和歌山県有田郡湯浅町湯浅1075-2)

- ・町民や駅利用者によく親しまれてきた湯浅駅旧駅舎を開業当時(昭和2年)の姿に復原改修することで、その歴史を後世に引き継ぐ。※町内小中学生が名前を屋根材の裏面へサイン
- ・駅舎の面影が残る施設で、電車を間近に眺めながら、食事や買い物ができる湯浅ならではの体験



昭和2年(開業当時)



令和2年(閉鎖後)



湯浅駅旧駅舎の改修について

■エリア計画

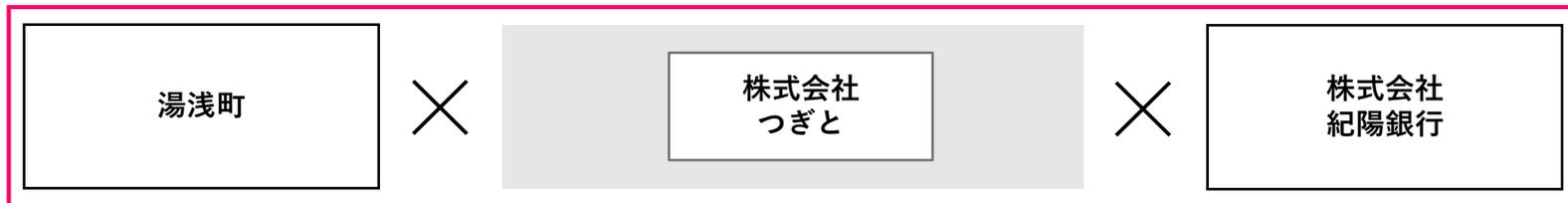
○駅前賑わいゾーンと伝建地区の楔として、その間に点在する古民家等の資源を活用し、町並みを散策する仕掛けを創出する

○多様な魅力を配置することにより、町の歴史を感じさせつつ周遊する仕組みとする



■古民家活用実施方針（案）を実行するための包括連携協定

事業構想・マネジメント



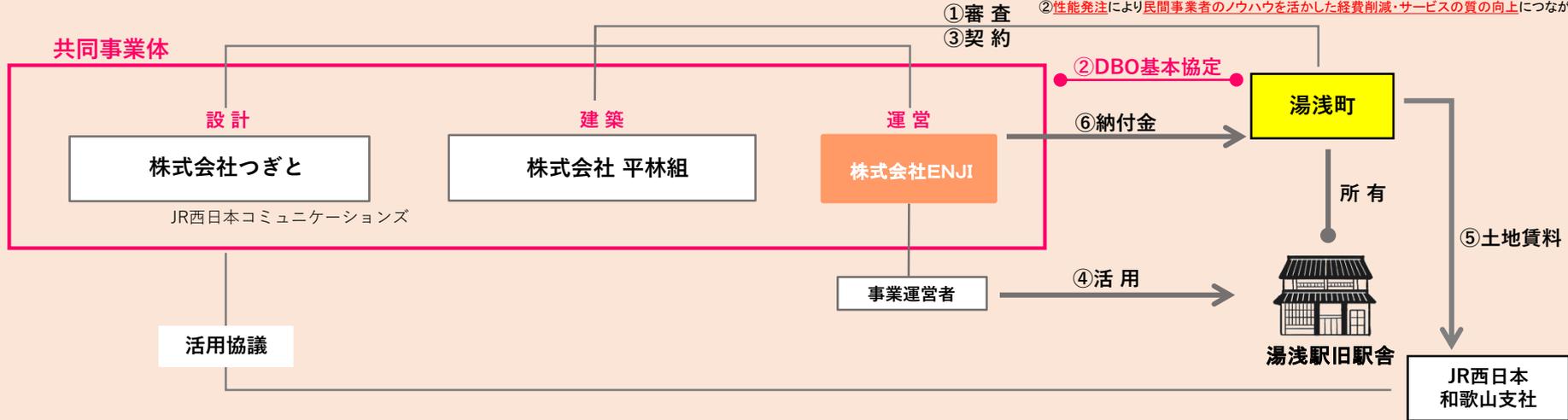
※令和2年度に策定した古民家活用実施方針(案)に基づき、互いの協力のもと湯浅町における歴史文化等を活用した地域活性化に資する事業活動を推進することを目的とした協定を締結

湯浅駅旧駅舎の改修について

■ 旧駅舎改修事業における実施体制 (公設・民営)

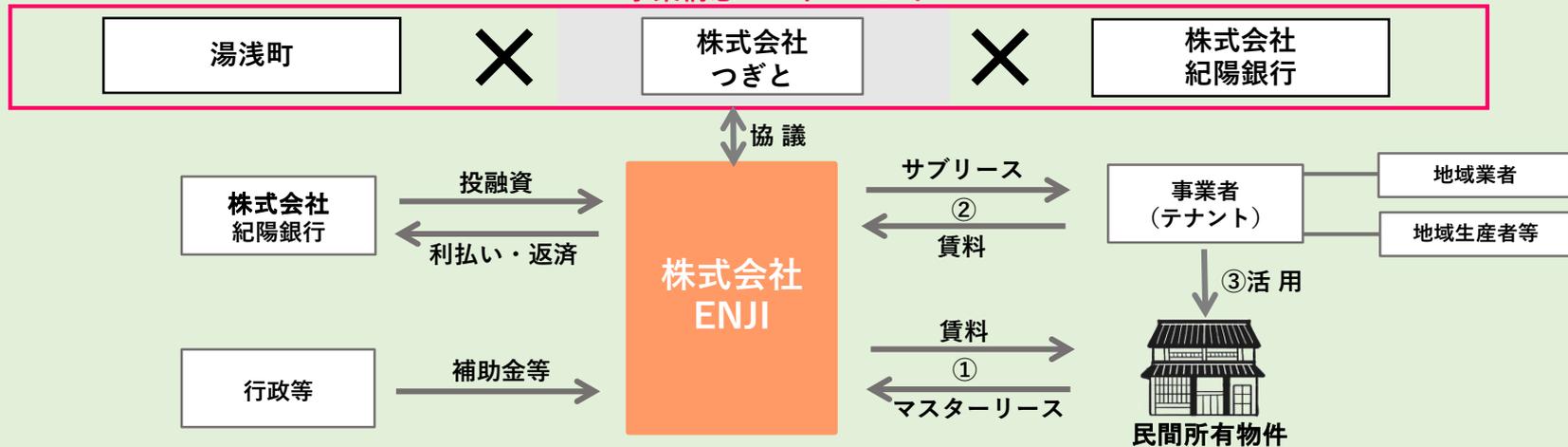
※DBO(デザイン・ビルド・オペレート)発注

①一括発注による運営を見据えた設計・施工により事業全体計画の最適化が図られる。
②性能発注により民間事業者のノウハウを活かした経費削減・サービスの質の向上につながる。



★ 古民家活用における実施体制 (民設・民営) ※改修・運営責任、リスクは株式会社ENJIが負担

事業構想・マネジメント



JR西日本和歌山支社との取組み

湯浅町・広川町・JR西日本和歌山支社の連携協定(R2)

湯浅駅を起点とした湯浅町及び広川町の交流人口の拡大を目指す

成果目標:湯浅駅の特急くろしお乗車人員100人/日

湯浅広川えきからワクワク検討委員会

上記の成果目標達成のため、これまで下記の取組みを実施

- ・ 湯浅広川Instagramフォトコンテスト
- ・ 和装体験イベント
- ・ デジタルスタンプラリー
- ・ 大阪駅日帰りツアー(うめきたエリアオープン記念)
- ・ 特急利用者の駅前駐車場及びレンタサイクル割引サービス
- ・ 町内小学生の鉄道学習
- ・ 駅を起点とした湯浅広川ハイキング など



湯浅駅旧駅舎の活用(R3～) ～湯浅町とJRにとってwin-winな取組みを～

- ・ 令和元年12月に湯浅駅が湯浅えき蔵に移転したことに伴い、旧駅舎が閉鎖。駅舎・構内トイレの維持管理に多額の費用がかかるため、JRとしては処分したいという意向があった。
- ・ しかし、旧駅舎は湯浅の市街地の構成にも大きく影響をもたらした施設として歴史的価値があり、また、駅前開発に関する町民アンケートの結果、「中心市街地の目指すべき方向性」という項目において、歴史文化を活かした観光サービス機能の充実が上位にあがっていたことや駅前開発における住民説明会において、旧駅舎を残してほしいという声が多くあった。

活用に向けた
JRとの協議

- * JR西日本から町に対して旧駅舎とトイレを無償譲渡、土地はJR西日本所有
- * 町において旧駅舎を起点とした古民家活用に関する方針案を策定し、JR構内の一部活用を要望・実現
⇒JR和歌山支社地域共生室、建築区、電気区等と度重なる協議や現地調査等を実施、工事の定例会にも参加いただく



駅前周辺の利用状況

<湯浅えき蔵 図書館利用者数>

令和5年度

約135,000人／年

<駅前駐車場利用者数>

令和5年度

約183台／日

約80%は2時間以内の利用

⇒湯浅えき蔵・公園利用、観光、食事など

<湯浅駅旧駅舎「湯浅米醬」利用者数>

令和5年度

約2,000組／月

駅前の賑わいを創出↓人の流れをつくる